

令和6年3月31日

## 区自治協議会提案事業 事業評価書

## 西区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	環境美化 【事業費予算 500 千円】
事業目的・概要	ごみ拾いSNS等を活用し、ごみを拾う人を増やすことで、ごみを捨てる人の行動変容を引き起こし、ごみのない綺麗な西区を目指す。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>①団体向け事業「環境美化パートナー制度」 西区自治協が指定するごみの多い場所(重点ポイント)で清掃活動をしていただける団体を募集した。登録団体には環境美化パートナーとなってもらい、清掃活動を行って頂く代わりに、活動の様子を西区HP、自治協広報紙で紹介し、広報を行った。また、西区自治協で作成したのぼり旗・ごみ袋等を配布し、ごみ拾いの際に活用いただいた。</p> <p>参加団体:23団体 延べ参加人数:1,305名</p> <p>②個人向け事業「さあチャレンジ!あなたもできます。#西区をきれいに!!」 西区に在住・通勤通学している個人向けに、ごみ拾いSNSピリカ内でイベントを開催。西区内でごみ拾いを行い「#にしくをきれいに」をつけて10回以上投稿してくれた方に賞品をプレゼントした。</p> <p>参加者:45名 投稿数:358件 賞品受賞者:6名</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【成果】 環境美化パートナー制度では、昨年度に引き続き、多くの団体・企業に参加していただいた。その活動を自治協が紹介・広報し、区民に認知してもらうことで、参加団体にとっても有益な取り組みとなった。 個人向け事業については、SNSの特性を生かし、ごみ拾いの成果を世界中のユーザーと共有することで、ごみ拾いを気軽に、楽しみながら実施してもらうことができた。また、NHK新潟の番組コーナーに取り上げられたことや、参加希望者に対してSNSピリカの登録、投稿のやり方をレクチャーする機会を設けたことにより、参加者や投稿数の増加に繋がった。 定期的にごみ拾いを実施したことで、そのエリアではポイ捨てが減少したとの声があったことから、事業目的はおおむね達成されたと考える。</p> <p>【課題】 環境美化活動に対する支援は、自治協提案事業終了後も継続して行う必要があると考え、次年度は継続できる仕組みづくりに取り組むことが必要と感じた。 パートナー制度では、地域で活動するコミュニティ協議会や自治会・町内会の参加数が伸び悩んだため、多くの団体に参加してもらうために周知の方法に工夫が必要と感じた。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	<p>支え合いの大切さ普及 【事業費予算 500 千円】</p>
事業目的・概要	<p>令和4年度に行った「支え合い」に関するアンケート調査結果から、中学生から50代までの現役世代において、支え合いの重要性は認識しているものの具体的に行動できていない人が多いことが分かった。この事業では、現役世代を中心として、支え合いに関する行動変容(＝普段から必要なときに能動的に支え合いを行うことができる)を促すためのきっかけづくりに取り組む。</p>
<p>事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)</p>	<p>■「あいさつ運動」街頭キャンペーン 支え合いの行動を起こす際のきっかけとなる“他者への声掛け”を多くの人が自然に出来るようになるため、「毎月5のつく日はごあいさつDAY」をキャッチフレーズとした「あいさつ運動」を行った。</p> <p>(1)日時／実施箇所 ①令和5年10月25日(水)7時～8時 / JR越後線 寺尾駅 ②令和5年11月15日(水)7時30分～8時30分 / JR越後線 小針駅、新潟大学前駅 ③令和5年12月5日(火)7時～8時 / JR越後線 内野駅</p> <p>(2)総動員数 77名(延べ)(①、②は水野西区長、③には中原市長が参加)</p> <p>(3)チラシ配布枚数 約1,800枚</p> <p>(4)協力団体 五十嵐小学校区コミュニティ協議会、坂井輪中学校区まちづくり協議会、小針小学校区コミュニティ協議会、内野・五十嵐まちづくり協議会、コミュニティ中野小屋、西内野コミュニティ協議会、ほか。</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>【地域課題の抽出方法とその解決策】 令和4年度事業で行ったアンケート調査やワークショップを踏まえ、支え合いの行動を起こせない人が数多くいる現役世代に向けて、行動変容のきっかけづくりとして「あいさつ運動」街頭キャンペーンに取り組むことにした。</p> <p>【成果】 ・「あいさつ運動」のキャッチフレーズ「毎月5のつく日はごあいさつDAY」は、簡潔でわかりやすく、記憶に残りやすいため効果的な広報活動が実現できた。 ・キャンペーンの会場として、人が多く集まるJR越後線沿線駅を選定し、通勤通学の時間帯としたことで対象とする現役世代に効率的に情報を届けることができた。 ・広報媒体として、のぼり旗と名刺サイズのチラシを制作。のぼり旗は運動の目印として効果を発揮し、チラシは手に取りやすいサイズ感が功を奏し多くの方に届けることができた。また、意見や感想コメントを残すことが出来る2次元コードをチラシに表示したことで、双方向コミュニケーションの環境を整えることができた。 ・今回の街頭キャンペーンの実施に際し、コミュニティ協議会など、地域を超えた連携や協働が醸成された。</p> <p>【課題】 ・「あいさつ運動」を一過性の取り組みではなく、地域に定着させるため、地域団体や事業者をどのように巻き込んでいくか。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	<p style="text-align: center;">区の魅力発掘事業 【事業費予算 500 千円】</p>
事業目的・概要	<p>西区のさまざまな魅力を深掘りし、「風景」として区内外に発信することで、より多くの区民が西区を好きになって住み続けるとともに区外からの移住を増やすことを目指す。</p>
<p>事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)</p>	<p>①西区八景の現地巡り 昨年度に選定した西区の代表的な魅力である「西区八景」について、八景の実態把握及び、今後の八景を活用した事業展開を見越して、部会委員による現地確認を実施した。</p> <p>②魅力発信フォトコンテスト「わたしの西区自慢 フォト&amp;エッセイ」 西区の魅力を区内外の人々に知ってもらうことを目的にフォトコンテストをインスタグラムを使って実施した。写真に加えて、選んだ理由、思い出、エピソード等も併せて募集し、より魅力に深みが増すような企画とした。</p> <p>投稿数:92件 (入賞予定) 西区八景賞:8作品 心に響いたで賞:19作品</p>
<p>事業の評価</p> <p><small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small></p>	<p><b>【成果】</b> 西区八景の現地巡りでは、実際に足を運ぶことで八景それぞれの魅力を再確認することができた。一方、見頃な季節や時間に合わせて赴く必要があることや、交通アクセス等の課題も認識することができた。 フォトコンテストについては、募集期間が短かったこと、広報活動の検討に時間を要したことにより、当初は応募件数が伸び悩んだが、チラシやSNSでの周知により、最終的には多くの応募をいただき、西区の様々な魅力を区内外に発信することができた。</p> <p><b>【課題】</b> 昨年度選定した西区八景を提案事業として有効的に活用しきれなかった。フォトコンテストの入賞作品の活用方法も含めて、次年度検討することとする。</p>
備考	

## 区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	第11回西区アートフェスティバル 【事業費予算 1,400 千円】
事業目的・概要	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西区にある郷土芸能などの良さを区民に広め、西区の良さを再認識してもらおう。</li> <li>・西区でアートの表現活動に取り組んでいる団体等に発表の場を提供する。</li> <li>・大学などと連携を深め、学術・文化豊かな西区の魅力を発信する。</li> </ul> <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。</li> <li>・郷土芸能分野の団体を対象にした発表の場として「アートフェスティバル」を開催し、郷土芸能を通して区民の地域交流を深める。また、西区にちなんだ多様な「アート作品」展示を行う。</li> </ul>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>&lt;郷土芸能団体発表&gt; 令和5年10月22日(日)13:00～16:00 黒崎市民会館 地域の6団体(うち1団体はビデオ放映)による踊りや太鼓などの郷土芸能が披露された。</p> <p>&lt;アート作品展示&gt; 令和5年10月21日(土)13:00～17:00、10月22日(日)9:00～16:00 黒崎市民会館</p> <p><b>【作品内容】</b></p> <p>①新潟大学工学部によるアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品 ④新潟国際情報大学写真部作品</p> <p>&lt;来場者延べ人数&gt;:282人</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価</p> <p>事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>◎アートフェスティバル</p> <p><b>【地域課題の抽出とその解決策】</b></p> <p>西区は坂井輪・西・黒崎地域の3地域で構成されているが、西区が一体となった文化活動を行うため、アートの表現活動に取り組んでいる方々に発表の場を創出し、大学等と連携を深め区民の一体感の醸成を図った。</p> <p><b>【アンケート結果】</b></p> <p>◆調査方法:来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に回答。</p> <p>◆有効回答:179名(有効回答率63.5%)</p> <p>&gt;「郷土芸能団体発表」はどうだったか [とても良い…71.7%、まあまあ良い…20.0%、ふつう…8.3%、やや不満…0%、不満…0%]</p> <p>&gt;「アート作品展示」はどうだったか [とても良い…71.3%、まあまあ良い…24.5%、ふつう…3.1%、やや不満…1.1%、不満…0%]</p> <p><b>【評価(成果)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟大学工学部によるアート作品展示では、普段接することが少ない学生との交流ができて良かった、との感想を来場者の皆さんから多数いただいた。</li> <li>・来場者数は前年度と比較すると半分程度だったが、5年度は来場者数が目的ではなく、地域に伝わる郷土芸能を区民に知ってもらうことが目的だったので、その目的はある程度、達成できたのではないかと。</li> <li>・学生と自治協委員が自ら企画し、受付などの運営も行い、様々な作品や体験コーナーで多くの方に楽しんでいただくことができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年度は郷土芸能にスポットをあてて開催したが、次年度以降は同じ内容での継続は難しいので、テーマを何にするかが問題。</li> <li>・5年度以上に、広く西区民からアートフェスティバルに興味・関心を抱いてもらえるような取り組みが重要である。</li> </ul>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
<p>テーマ・事業名</p>	<p>地域の防災力向上 【事業費予算 300千円】</p>
<p>事業目的・概要</p>	<p>災害に対する区民の不安、防災・減災への疑問などを少しでも解消することで、いざという場面で区民が迅速に対応できること、命を守る行動がとれることを目指し、ワークショップや講演会を実施する。</p>
<p>事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)</p>	<p>○防災講演会の開催 日時)令和5年11月18日(土)14時30分～ 講師)防災システム研究所 所長 山村 武彦 氏 テーマ)気候変動と防災の関係 大切な命を守るために 参加者)105名</p> <p>○防災ワークショップの開催 日時)令和5年12月27日(水)15時30分～ 講師)防災士 古俣 和博 氏 テーマ)豪雨災害に備える！西区版「アワタラ」を作成しよう！ 参加者)自治協委員 27名</p>
<p>事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small></p>	<p>■防災講演会</p> <p>○講演会の事後アンケートでは、全ての参加者が「非常によかった」「よかった」と評価するなど非常に満足度の高い事業となった。</p> <p>○近年増えつつある猛暑や豪雨など気候変動由来の災害をテーマに、発災前後の備えの重要性や地域の共助の大切さなどについて、実例を元に学ぶことが出来た。</p> <p>■防災ワークショップ</p> <p>○災害時における避難行動を時系列で整理した「アワータイムライン(アワタラ)」の作成を通じ、自分自身の行動のみならず、家族や近所、職場、行政などの動きを把握することで、それぞれの環境下における発災前後の具体的な行動を認識することができた。</p> <p>【総括】 ○令和6年1月1日に発生した能登半島地震を経て、これまで以上に地域住民の防災意識が高まりつつある中、地域防災力の向上に向けて、自治協議会として出来ることを再検討する必要がある。</p>
<p>備考</p>	